

## 子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体が 文部科学大臣から表彰されます！

子供の読書活動の推進において優れた取組を行った学校・園・図書館・団体が文部科学大臣表彰を受けます。

### 1 表彰の概要

#### (1) 趣旨

国民の間に広く子供の読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子供が積極的に読書活動を行う意欲を高める活動において特色ある優れた実践を行っている学校・園・図書館・団体及び個人（以下「学校等」という。）に対し、その実践をたたえ文部科学大臣が表彰する。

#### (2) 被表彰校等

【学校・園】大崎上島町立大崎上島幼稚園

東広島市立志和堀保育所

三原市立本郷西小学校

庄原市立東城小学校

【図書館】神石高原町シルトピアカレッジ図書館

【団体】読み語りボランティア 虹の会（三原市）

#### (3) 被表彰団体の活動概要

別紙のとおり

### 2 表彰式

#### (1) 日時

令和8年4月23日（木）13：00～16：40（予定）

※「令和8年度「子どもの読書の日」記念 子どもの読書活動推進フォーラム」において行われます。

#### (2) 場所

国立オリンピック記念青少年総合センター（カルチャー棟大ホール他）

（東京都渋谷区代々木神園町3-1）

## 【学校・園】

(別紙)

学校名	主な取組
大崎上島町立 大崎上島幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大崎上島町立大崎上島幼稚園では、「豊かな心と言葉、思考力」を育むため、絵本の読み語りを年間指導計画の領域「言葉」「表現」に位置づけて、読書活動を推進している。</li> <li>・平成27年度から「大崎上島学」の一環として、外部講師を招いた民話の語り聞かせを実施するとともに、民話の舞台を実際に訪れて語りを聞くことや民話に基づくごっこ遊び、劇の創作などを通じて、想像力や表現力を育てている。</li> <li>・長年にわたって行われている地域ボランティア「つくしの会」による月1回の読み語りに加え、平成31年度からは保護者による読み語りを学期に1回のペースで実施している。</li> <li>・令和5年度から「1日1冊」を目標に絵本を貸し出し、家庭での読み語りを推奨している。読んだ絵本を親子で振り返れるよう、「えほんカード」に貸出記録を記載するとともに、園便りや懇談会で読み聞かせの大切さについて伝えている。</li> <li>・令和6年度から友達と一緒に絵本を読む楽しさを感じられるよう、週3回の朝読書時間を設けている。</li> <li>・共有スペースに図鑑コーナーを設置することで、異年齢交流や探究的な遊びが自然と生まれる環境づくりを行っている。</li> </ul>
東広島市立 志和堀保育所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東広島市立志和堀保育所では、令和5年度から食育年間計画を踏まえ、絵本担当職員と給食調理員が連携して、絵本を活用した食育活動に取り組んでいる。</li> <li>・地域住民の協力を得て実施している米作りでは、保育者がテーマに合わせた絵本を示して、食への興味・関心を促すとともに、実体験と絵本の世界を結び付けて、子供たちの食に関する体験をより豊かなものに行っている。</li> <li>・令和7年度から絵本ルームを「志和堀サロン」として地域の子育て家庭にも開放している。子供の年齢に応じた選書のポイントや、読み聞かせの大切さを伝えるなど、絵本のある子育ての大切さを伝える場となっている。</li> <li>・遊びと絵本を連動させて、ファッションショーや忍者ごっこなど多様な活動を展開するとともに、保護者向けの発表会等でも披露している。</li> <li>・地域ボランティアによる読み聞かせを月1回実施し、歌や言葉の掛け合いなどを楽しんでいる。</li> <li>・毎週1回絵本の貸出を実施しており、子供が自分で選んだ絵本を持ち帰ることで、絵本に興味をもつきっかけとなっている。要望があった場合には、保護者や地域の方にも貸出しを行っている。</li> </ul>

<p>三原市立 本郷西小学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三原市立本郷西小学校では、平成 28 年の開校以来「みんなでつくる、みんなで楽しむ」のもと、校長の強い指導力で組織的活動を推進している。図書館を教育課程の中核に据えた「「ほんにし」たしむ図書館」プロジェクトを 10 年間にわたり展開し、教育目標の具現化を全教職員で図っている。</li> <li>・窓ガラスアートや選書等に児童の声を反映させている。また、使いやすい書架配置や「ワクワクするコーナーづくり」により、児童が自分たちの図書館として深い愛着をもち、主体的に活用できる環境を整備し、本を介した豊かな対話を生む工夫が学校文化として定着している。</li> <li>・「自律した読書習慣の形成」を重視し、電子図書の活用や、市独自の「ザ・ベストテン」参画、「子ども司書」による意欲的な広報等、デジタルとアナログを融合した取組を展開している。児童が自ら本を選び取る力を育み、生涯にわたり主体的に本に親しみ続ける基盤を築いている。</li> <li>・全教員による読み語りや公共図書館、高校生との連携、親子ワークショップ等、学校、家庭、地域が一体となった体制を構築した。本を介した豊かな多世代の交流を促進し、地域に開かれた質の高い読書センター機能を実現している。</li> <li>・こうした取組により、課題であった第 5、6 学年における貸出数が増加するなど、学校全体で図書の貸出数及び質が向上した。本による心の交流は、問題行動の減少に繋がる等、高い教育的な成果を上げている。</li> </ul>
<p>庄原市立 東城小学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庄原市立東城小学校では、図書委員が多読と多種多様な本への興味を願い命名した「わくわくレインボー図書室」をコンセプトに掲げて学校図書館の利活用を推進している。教職員研修を定期的実施したり、市立図書館、地域ボランティア、学校運営協議会等との連携を図ったりし、児童の読書習慣の形成に向けて組織的・計画的に取り組んでいる。</li> <li>・地域寄贈の本棚等も活用し「学校まるごと図書館」を具現化した。学校生活の動線に本が溶け込み、実効性の高い環境を整備し、図書の自発的な利用を促している。</li> <li>・生涯にわたる読書習慣の形成を重視し、電子図書の活用や補助具の常備により、児童の多様なニーズにきめ細かく対応している。児童が目的や特性に応じて自律的に資料を選択・活用する力を育み、学びの基盤を築いている。</li> <li>・図書委員会による読み語りや読書ビンゴ、移動図書館等の実施により、児童の本に対する興味・関心を引くイベントを実施している。また、「東城小子供読書の日」や「月末読書」の実施により、家庭での読書活動も充実させている。学校公開日等に保護者にも学校図書館を開放するなど、保護者連携を強化し、地域に開かれた質の高い読書センター機能を実現している。</li> <li>・こうした取組により、不読率 0% を継続し、年間貸出数が一人当たり 101 冊に達するなど顕著な成果を上げている。ビブリオバトル等を通じた表現力の向上は、児童の学力向上につながっている。</li> </ul>

## 【図書館】

図書館名	主な取組
神石高原町シルトピアカレッジ図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 神石高原町シルトピアカレッジ図書館では、平成 12 年からボランティアと協働して、月 2 回のおはなし会を実施するとともに、乳幼児から小学生までを対象にした図書館祭りを毎年開催している。</li> <li>・ 保護者や大人に読み聞かせの大切さを伝える活動の一環として、平成 16 年から保護者対象の「読み聞かせ研修会」を実施しており、令和 4 年からは町内 P T A 連合会との共催で、「子供の読書にかかる講演会」を開催している。</li> <li>・ ボランティアとの協働による様々な活動を行っており、平成 22 年から子育て応援課との連携の下、乳幼児健診時の絵本の読み聞かせに加えて、絵本のプレゼントと紹介を行うブックスタートを開始した。平成 23 年からは、町内 6 保育施設で、絵本の読み語りと演奏を行う「お話コンサート」を続けている。</li> <li>・ 令和 5 年から子供が本に親しむきっかけとなるよう、ぬいぐるみのお泊まり会を開催するなど、ボランティアとの協働を発展させている。</li> </ul>

## 【団体（個人）】

団体名	主な取組
読み語りボランティア 虹の会（三原市）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読み語りボランティア 虹の会では、活動開始当初から現在までの 41 年間にわたり、三原市立中央図書館でのおはなし会を継続している。現在は、土曜日おはなし会を月 2 回、0 歳からのおはなし会を月 1 回開催している。</li> <li>・ 平成 27 年から三原市立南小学校でおはなし会を月 1 回実施するとともに、市内の放課後児童クラブや放課後子ども教室でも定期的におはなし会を行っている。</li> <li>・ 5 年ごとの周年事業として、平成 10 年から継続的に読書イベントを開催しており、絵本・児童文学作家等の講演会などを通して、多くの人に絵本や児童文学の魅力を伝えている。</li> <li>・ 障害の有無にかかわらず絵本を楽しみ、参加者全員が手話と絵本に親しめる機会を提供するため、平成 21 年から 9 年間に渡って手話通訳付きおはなし会を開催していた。諸事情により中断していたが、会員の尽力により、手話通訳士のボランティア支援が得られるようになったことから、令和 7 年から再開できている。</li> <li>・ 月例研修として、おはなし会の振り返り、絵本の紹介や読書会、手遊びやわらべ歌あそびの練習などに取り組んでおり、会員同士の連携・協力による資質向上に努めている。</li> </ul>